

毎年11月第三曜日(WHO(世界保健機関)が定めた記念日です)。

# 世界道路交通事故の日

毎年11月第三曜日

World Day of Remembrance for Road Traffic Victims

本リーフレットは「世界道路交通犠牲者の日」の日本国内の普及・啓発のために制作・配布しています。  
ご希望の方は<お問い合わせ先>までご連絡ください。

## ◇発行・お問い合わせ先

クルマ社会を問いただす会  
URL <<http://toinaosu.org>>  
E-mail <[kstn@red.zero.jp](mailto:kstn@red.zero.jp)>  
FAX: 03-5261-5931



持続可能な地域交通を考える会 (SLTc)  
URL <<http://sltcc.jp/contact>>  
FAX: 020-4664-6084



## ◇平成21年度 かわさき市民公益活動助成金 活用事業(川崎市内向け頒布分)

世界道路交通犠牲者の日について一度、命・交通事故による悲劇、交通事故防止の社会全般に目撃してもらいたいです。

交通事故は近身近く問題です。日本では毎年多くの死者・負傷者がいるのです。この「世界道路交通犠牲者の日」は毎年11月第三曜日(毎年毎年、轢出、運転)です。

世界で毎年120万人の人が交通事故の犠牲者となり、毎年11月の第3曜日は定められています。世界道路交通犠牲者の日は、交通事故(交通事故)被害者の教育及び、交通事故防止を啓発する世界共通の国際的な日です。2005年10月26日の国連総会の決議により、毎年11月の第3曜日は定められています。

世界道路交通犠牲者の日は、交通事故(交通事故)被害者の教育及び、交通事故防止を啓発する世界共通の国際的な日です。

いつでも交通事故の被害者に、そして加害者になることを忘れないでください。

内閣府「交通安全白書」によると、

◆日本は先進国の中で歩行中の交通事故死者の比率が目立っている。

◆第1当事者は自家用車。

2008年中の第1当事者(交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者又は過失が同程度の場合は被害が最も軽い者をいう。)の交通事故死事故発生件数を車種別にみると、自家用乗用車(49.3%)及び自家用貨物車(19.6%)で全体の約7割を占めています。

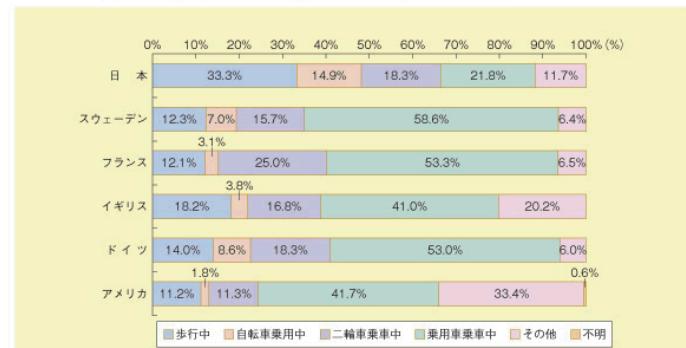
◆交通事故死者数及び負傷者数は歩行者が一番多い。

交通事故死者数を状態別に見ると、歩行中が最も多く、自転車乗車中と合わせ、クルマに乗らない人の被害が48.2%を占めています。欧米諸国と比べて異様な状況にあります。(2007年、右グラフ参照)

◆交通死亡事故は交差点内が最も多い。

2008年中の交通死亡事故発生状況を道路形状別にみると、交差点内が最も多く、38.2%を占めています。

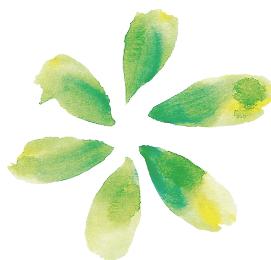
主な欧米諸国の状態別交通事故死者数の構成率(2007年)



注 1 IRTAD資料による。

2 数値は状態別構成率

## 道路はいったい誰のもの？



2007年「世界道路交通犠牲者の日」に  
向けてWHO(世界保健機関)が「安全週間」として  
作成した5つのポスターの中の1つです。



スピードは道路を使う  
あらゆる人を殺してしまう、  
平均速度を5%落とせば、  
致命的な衝突を30%以上  
減らすことができる、  
と指摘しています。



◆道路はクルマだけのものではありません。  
歩行者が安心して歩ける「道」が当たり前です。  
交通事故、交通死亡事故をなくすために、  
安全な道にしていくには、

- ・生活エリア、生活道路での速度(30km/h)の制限。
- ・通学路(スクールゾーン)の安全確保。
- ・ハンプ・クランクや歩車分離信号など歩行者保護対策整備。
- ・ドライブレコーダーの全車義務化。が必要です。

◆クルマに乗る時は

- ・シートベルトを忘れずに。
- ・制限速度を守る。
- ・歩行者を優先する。
- ・安全運転、そして
- ・なるべく公共交通を利用する。

◆この運動の提唱者である、イギリスの遺族団体ロードピースからのメッセージ。

15年前にスタートさせた「世界道路交通犠牲者の日」が遠く日本まで広がったことを私たちは本当にすばらしいことと思っています。世界各国の道路交通被害者が連携するこの日がきっかけとなって、世界中のすべての人たちが、今も各地で毎日起こされている交通事故に注目することになるでしょう。そしてこの大量殺戮を一刻も早く終わらせるための、行動につながっていってくれるものと確信しています。

ブリジット・チョードリー

ロードピース 創設者・会長  
欧洲道路交通犠牲者連盟 会長